

< 目 次 >

- 1 【 実践事例 】・永井地区教育振興運動推進会議（一関市）  
    《教育振興運動「実践の3年」集約県大会 発表事例》  
    ・花巻北小中学校区実践区（花巻市）《家庭学習》
  - 2 【 学力向上 】秋田県・東成瀬村教育委員会 鶴飼教育長の講話より
  - 3 【 教振は今 】教ちゃん、振ちゃん見聞録
  - 4 【 みんなの声 】ぺっこ言い隊
  - 5 【 編集後記 】あつしのひとりごと
- 

- 1 【 実践事例 】・永井地区教育振興運動推進会議（一関市）  
    《教育振興運動「実践の3年」集約県大会 発表事例》  
    ・花巻北小中学校区実践区（花巻市）《家庭学習》

集約県大会で発表いただいた実践事例のひとつは、永井地区教育振興運動推進会議です。永井地区の実践で1番に紹介したいところは、教育振興運動の「モデルプログラム」を活用し、5者の役割分担を明確にして取り組んでいる点です。5者の連携とは何かということ、改めて考えさせられる発表でした。

事例⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei\\_nagai2.pdf](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_nagai2.pdf)

花巻市の花巻北中学校では、毎週月曜日を「家庭学習の日」と位置付け、部活動を行わず、学習の個別指導の日として成果をあげています。また、教育振興運動のいうところの5者の代表が集まり、教育の向上について協議する「北中サポート会議」を開催しています。

事例⇒ [http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei\\_hanamakikita.pdf](http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/jirei_hanamakikita.pdf)

---

- 2 【 学力向上 】秋田県・東成瀬村教育委員会 鶴飼教育長の講話より

教育振興運動「実践の3年」集約県大会にお招きした秋田県東成瀬村教育委員会教育長 鶴飼 孝 先生の講演要旨をお伝えします。

(1) 人は人のシャワーをあびて人になる

- ・東成瀬村では、「子どもたちの個性を尊重し、その力を伸ばす（ニーズに応える）ために、学校の教員の力だけではなく、地域の様々な方の力を借りて伸ばす“社会総参加の教育”」を展開しています。また、「教育は学校のみで行われるのではなく、積極的に学校から地域に出ていき、村民の生きがいつくりや福祉の向上に貢献すべきである。」と、地域の力を借りるだけではなく地域の中で活動する必要性を説いていました。

- ・「学校というところは、いろんな子どもがいて、自分とは違う個性を持つ人に触れながら自分を顧みることによって自分を高めていく場であり、学校は意図的に関わりあう場面を作り、学び合う教育が必要である。」としながら、“教育＝学校”という枠を取り払い、“教育＝学校・家庭・地域”を展開し、「人は人のシャワーをあびて、人になる」ということを強調していました。

## (2) 工夫と厳しさ

- ・ 東成瀬村の取組は、「華やかな花火はお見せできないけれど、どこにも負けない線香花火をやっている」と着実に背伸びをしない取組を行っていることを表現していました。  
しかし、その取組は「前例踏襲ではなく、常に工夫されている」ものであり、「教育に上限はない。いくら伸ばしてもいい。登山に例えるなら、今、子どもたちが二合目にいるのであれば、三合目に達するように導く必要がある。そこに達しないのであれば、その原因を究明し、原因を乗り越える工夫が必要である。」とすべきことをきちんと検証しながら進めるというものです。
- ・ また、「不平・不満は、3日目までは言っている。4日目からは、自分は何をすべきで、何をしたかを考え、1年経った3月には子どもたちがどのように変わったかを評価しなければいけない。子どもがどれくらい伸びたかを村民に返していかないと、自分の仕事の役目を果たしたとは言えない。」と説き、学校の研究授業については、「褒めあう必要はない。課題を解決するために行っているのだから、その点に焦点を絞って、厳しさをもって話し合う必要がある。それが、子どものためであり、学校全体の教育水準を高めていく」と、厳しい姿勢を求めています。

## (3) 教育は、人の心に灯をともし

- ・ 「大人の一声、先生の一言が、どんなにその子を勇気づけ、将来の人生を変えていくかを考えて、責任を持ってすべきである。将来に希望と未来を実感してもらえるように、自信と誇りを持たせたい。安心感と信頼感を子どもたちに与えられる大人・先生でありたい。環境が人を作るわけであるが、その環境とは周囲の人の雰囲気や言動のことであり、子どもには大きな影響を与える。」と子どもたちに励ましの言葉をかけ、澁刺とした地域の大人・先生の姿が大切であると話していました。

⇒ 「学力向上に特効薬はない。最小限の条件は、学校・家庭・地域・子ども自身・行政がそれぞれの役割を十分に果たすこと」と本県の教育振興運動と同じであると話していました。

理念は、東成瀬村も岩手県も同じです。学校教育中心のお話でしたが、教育振興運動に置き換えても同様に考えることができるものだと思います。学校・家庭・地域が一体的に取り組んでいるか、前例踏襲であったり、課題意識が薄い取組となっていたりしていないか、子どもたちが変化したかを厳しく評価しているかという点を再確認する機会をいただきました。

講演会資料 ⇒

### 3 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

- (教ちゃん) 2月27日(日)に岩手日報に掲載された「いわての中高生のためのおすすめ図書100選(愛称;いわ100)」の紹介は、すごく大きかったね。びっくりしちゃった。
- (振ちゃん) うん。見た、見た。あれを見て、生涯学習文化課に「私も欲しい」という問い合わせがたくさんきているんだって。
- (教ちゃん) その「いわ100」が、県内の中学生・高校生にひとり一冊ずつ配付されたの。学校の様々な場面で、「いわ100」を使ってほしいわ。
- (振ちゃん) そうだね。学校図書室の図書購入の参考としたり、図書委員会の活動として「いわ100」フェアをやったりと、学校での読書活動の推進にも使えそうだね。
- (教ちゃん) 国語の授業で使ったり、夏休みの読書感想文を「いわ100」の中から選んで書かせたり、いろいろと考えると楽しいわ。
- (振ちゃん) 学校や地域の取組で、生徒がこの「いわ100」をいつでも使うよう仕掛けを組んでいって欲しいな。
- (教ちゃん) そうなの。高校を卒業するまで使い続けて、是非100冊読破して欲しいわ。早速、高校生から、次のお手紙をいただいたのよ。

自分はO高等学校1年のSと申します。今日、学校で「いわ100」が配られました。かなり良いキャンペーンだと思いました。部活ばかりしている自分は本を読むのが苦手です。部活以外の楽しみを見つけようとした時、読書が面白そうと考えました。そこで、高校在学中に100冊を制覇させようと考えています。あまり行ったことのない図書館、本屋に行き、100冊制覇できるよう努力します。応援、よろしくお願いします。

- (振ちゃん) うれしいな。S君頑張れ!
- (教ちゃん) これから、学校図書館・公立図書館の配架用「いわ100」(A4判)とポスターが届くことになっているので、いつも目につくところに置いたり、貼ったりしてくださいね。
- 

### 4 【みんなの声】ぺっこ言い隊

いつも楽しく拝見しております。  
教育振興運動では、「読書活動の推進」と「家庭学習の充実」を全県共通課題としているとのことですが、学校でもこれを意識した取組が行われているようで、学校、地域、家庭の連携が実感できるようになったと思います。

先日、我が家の子どもたちが図書館でたくさん本を借りたということで努力賞のようなものをもらってきました。おかげで、それをネタに親子の会話が弾ん

だところですよ。

そこでお伺いしたいのですが、これまでの全県共通課題に係る取組の進捗状況や課題、そして目標年である平成 23 年度に向かって、どういうことに注意しながら私たちも取り組んでいけばいいのか、アドバイスとともに御教示いただければと思います。(H町 Cさん)

⇒ ありがとうございます。次号で平成 22 年度教育振興運動の進捗状況の特集をしたいと思います。

---

#### 4【編集後記】あつしのひとりごと

今年の 1 月 29 日に内閣府が発表した「少年非行に関する世論調査」によると、少年非行に関する社会環境で何が問題点かを複数回答で尋ねたところ、1 位・2 位ともに携帯電話やインターネットの普及に伴うものでした。(1 位；「簡単に見知らぬ人と出会える」63.4%、2 位；「簡単に暴力や性、自殺に関する情報を手に入れることができる」47.3%)

先に問題となりました大学入試における携帯電話やインターネットを使った不正問題も、簡単に、安易に行われたものでした。ネット社会は匿名性が強いように思われがちですが、通信記録（IP アドレスや固体認識番号）からすぐに特定できるということも、この機会に大々的に取り上げてほしいものです。

また、世論調査では、非行の防止に特に大きな役割を果たすのは「家庭」と答えた人が最も多く 76.4% でした。非行要因となりうる携帯電話等を買与えるのも、非行防止の役割を果たすのも「家庭」ですが、だからといって「家庭」だけに責任を押し付けず、「家庭」をサポートできる地域を作っていきたいものです。

⇒ 第 4 1 号は、3 月 2 2 日（火）配信です。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ [21kyoushin@gmail.com](mailto:21kyoushin@gmail.com)

★平成 21 年度配信のバックナンバー（第 1～17 号）はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index5.html>

★平成 22 年度配信のバックナンバー（第 18～37 号）はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index8.html>

★平成 21 年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index3.html>

★平成 22 年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index6.html>

～～～配信元～～～

\* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。  
~~~~~